

平成 21 年度 岩手県小・中学校における家庭学習に関する調査

小学校

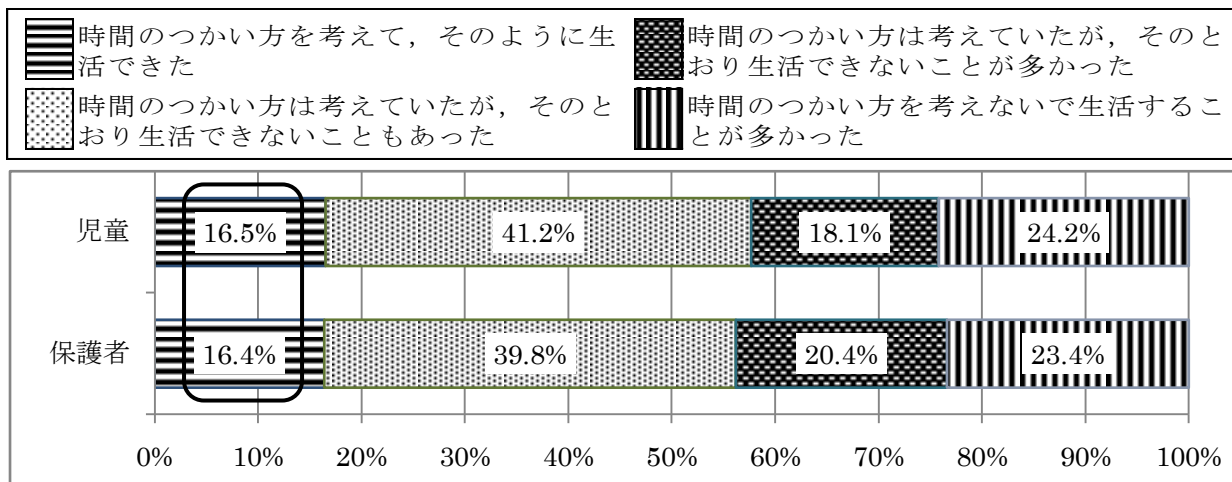
分析と考察

(1) 帰宅後の時間のつかい方

帰宅後の時間のつかい方について、【小学校教務主任調査】質問13，【小学校学級担任調査】質問11，【小学校児童調査】質問16，【小学校保護者調査】質問12を用いて考察する。

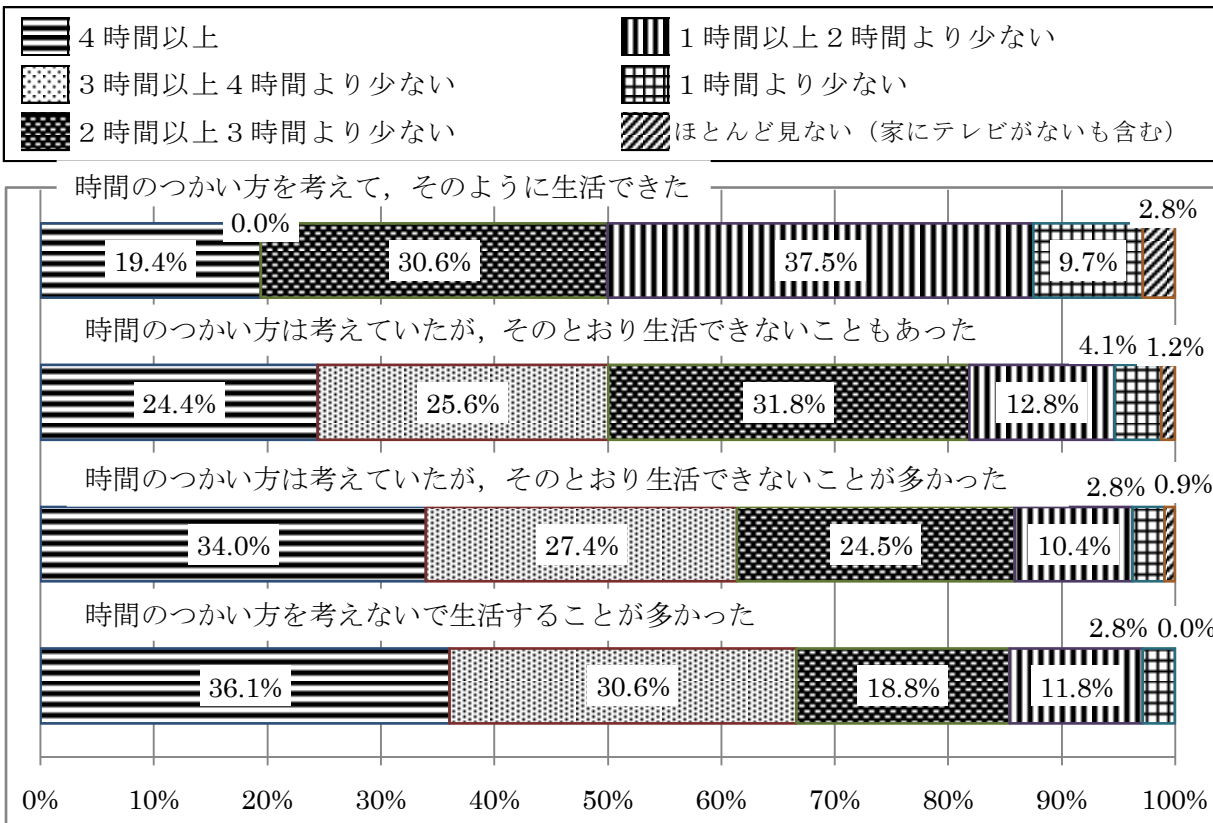
【小学校児童調査】質問16 【小学校保護者調査】質問12

帰宅後、ねるまでの時間のつかい方を考えて生活しましたか。



- ・「時間のつかい方を考えて、そのように生活できた」と回答した児童は16.5%、保護者は16.4%である。

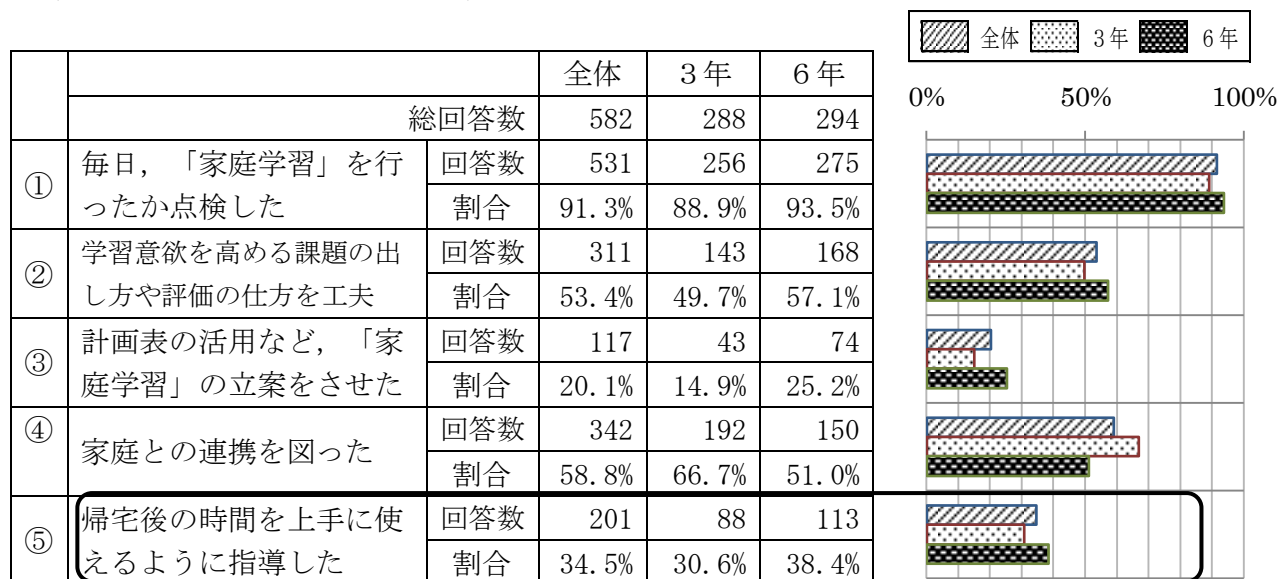
【帰宅後の時間のつかい方とテレビの視聴時間とのクロス集計】



- ・「帰宅後の時間のつかい方を考えないで生活することが多かった」児童は、テレビの視聴時間も長い傾向がある。

【小学校学級担任調査】質問11

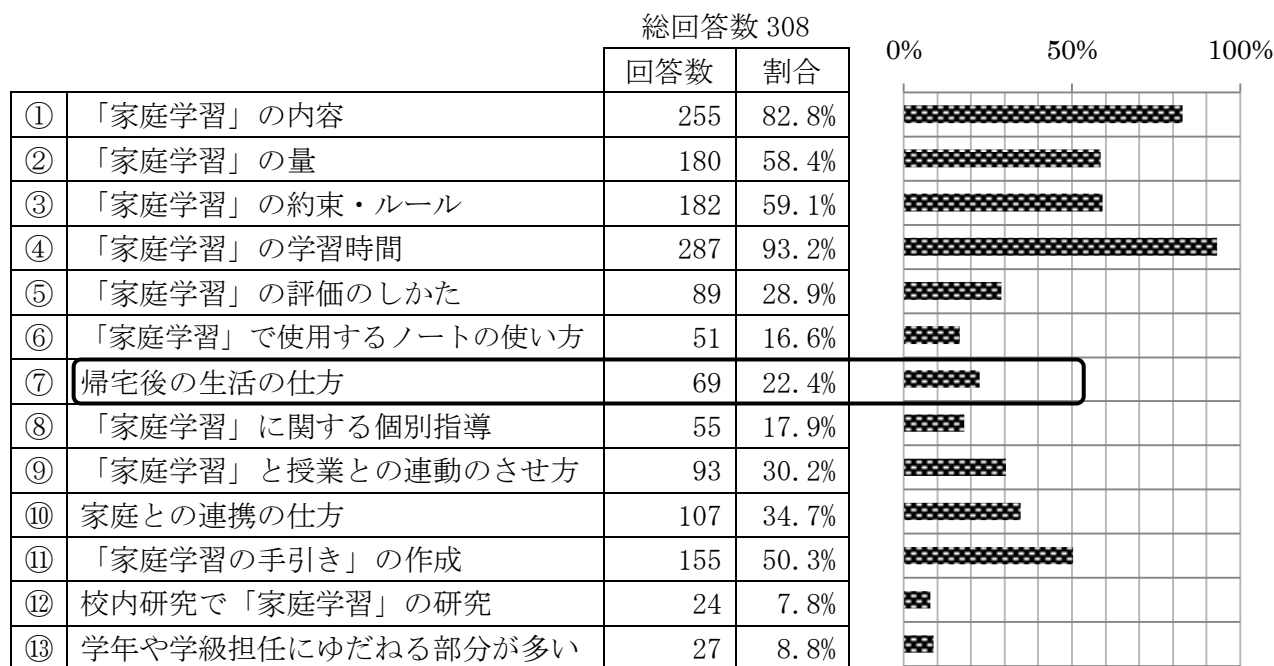
「家庭学習」の習慣化を図るために、どのようなことを行いましたか。（複数回答可）



・「帰宅後の時間を上手に使えるように指導した」は、全体で約34.5%である。

【小学校教務主任調査】質問13

「家庭学習」に関する具体的指導について全教員で共通確認していることを選んでください。（複数回答可）



帰宅後の時間のつかい方についての考察

児童や保護者の意識から「帰宅後の時間のつかい方」を考えながら生活できている児童は2割に満たない。帰宅後の生活の仕方の改善には、家庭の協力を得なければならないが、学校での「帰宅後の時間のつかい方」指導も不可欠である。しかし現状はその指導が十分になされているとは言い難い。「帰宅後の時間のつかい方」指導は、家庭学習の習慣化だけでなく、本県児童の課題である「テレビの視聴時間が長い」の改善のためにも重要なことである。帰宅後、メリハリのある規則正しい生活のできる児童を育てる指導について、学校として取り組む必要がある。

(2) テレビ視聴時間とながら勉強

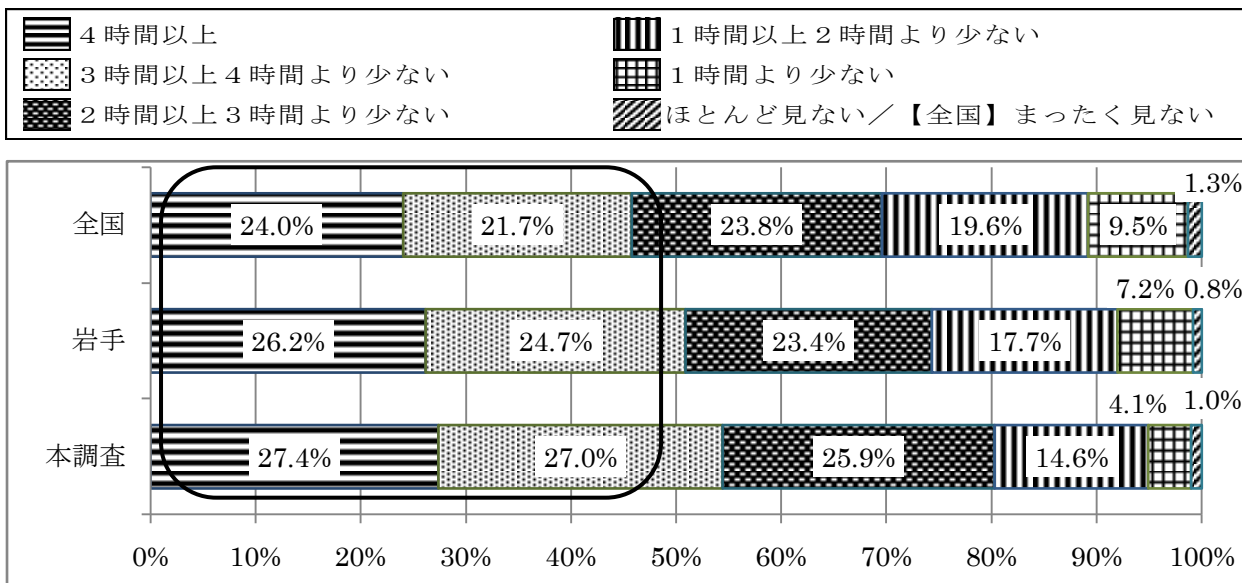
テレビ視聴時間とながら勉強について、【平成21年度全国学力・学習状況調査】児童質問紙(12)，【小学校児童調査】質問7，18，19を用いて考察する。

【平成21年度全国学力・学習状況調査】 児童質問紙(12)

ふだん（月曜日から金曜日），1日あたりどれくらいの時間，テレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりしますか。（テレビゲームをする時間は除きます。）

【小学校児童調査】 質問18

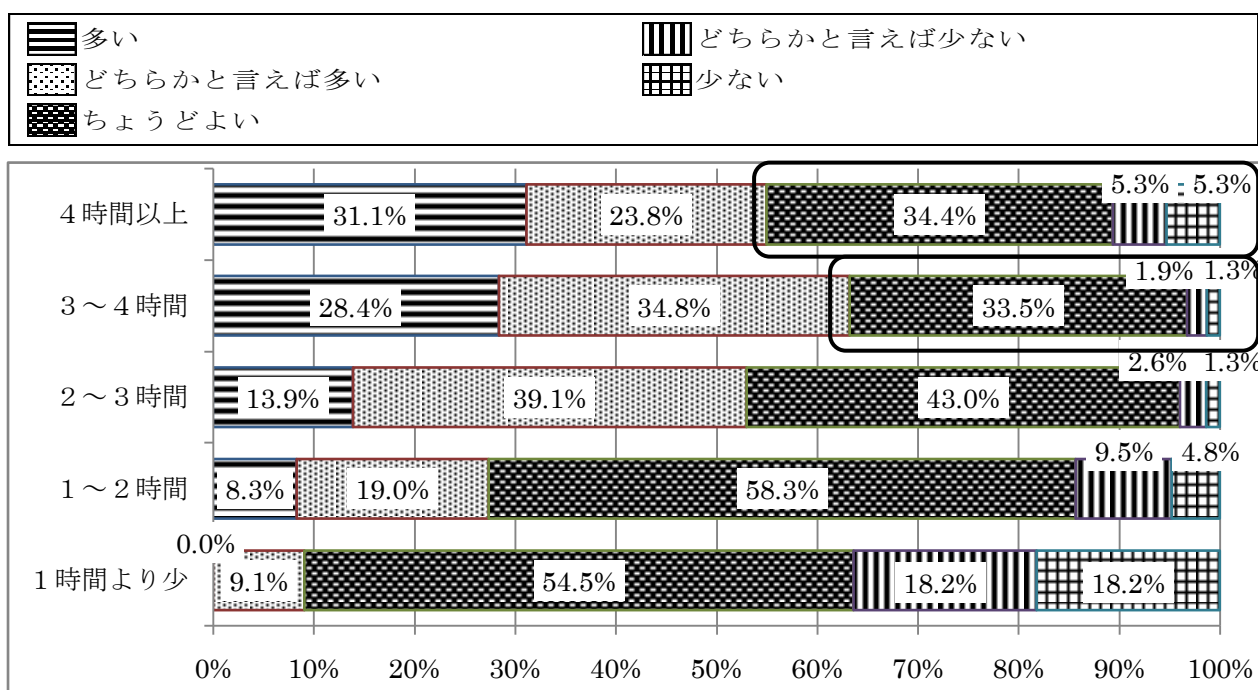
ふだん（月～金曜日），1日あたりどれくらいの時間，テレビを見ましたか。



・本県児童のテレビ等視聴時間は、全国学力・学習状況調査及び本調査において、全国平均よりも長い傾向がある。

【小学校児童調査】 質問19

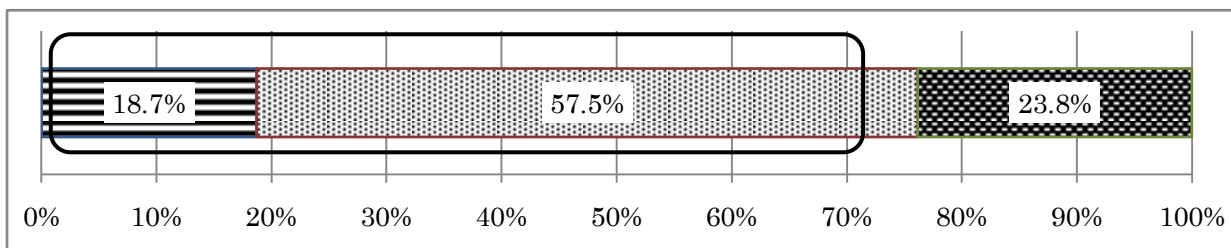
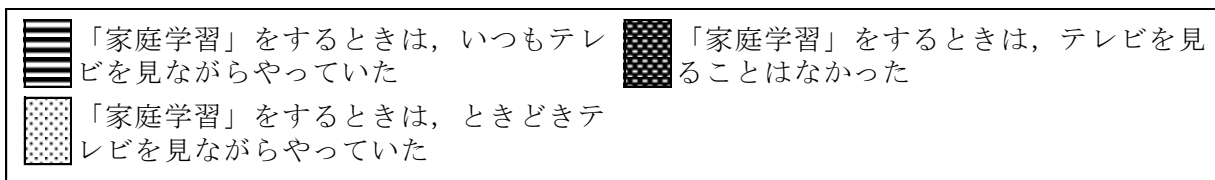
質問18の自分がテレビを見る時間をどのように思いますか。



- ・テレビの視聴時間が「4時間以上」で、その視聴時間が「ちょうどよい」「どちらと言えば少ない」「少ない」と考えている児童が約45.0%である。
- ・テレビの視聴時間が「3時間以上4時間より少ない」で、その視聴時間が「ちょうどよい」「どちらかと言えば少ない」「少ない」と考えている児童が約36.7%である。

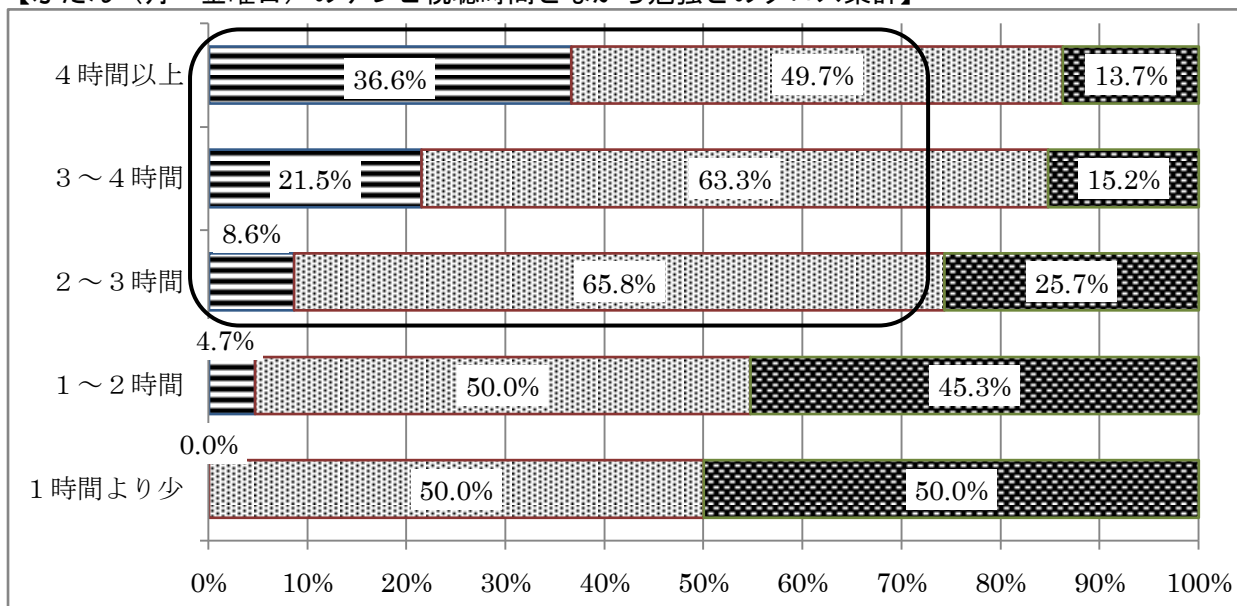
【小学校児童調査】質問7

家庭学習をするとき、テレビが気になりますか。



- ・家庭学習をするときに、「ながら勉強」をしているのは約76.2%である。

【ふだん（月～金曜日）のテレビ視聴時間とながら勉強とのクロス集計】



- ・普段（月～金曜日）のテレビの視聴時間が長いほど、「ながら勉強」の割合が高い。

テレビ視聴時間とながら勉強についての考察

テレビの視聴時間の多さは課題である。しかも、その視聴時間を「長い」と意識していない児童が少なくないことや、家庭学習の「ながら勉強」が75%を超えていることも深刻な課題としてとらえるべきであろう。本県児童の家庭学習の時間は1時間程度（P10参照）の児童が多いが、「ながら勉強」での1時間に、どれほどの学習効果があるか疑問である。

このことから、帰宅後の時間のつかい方全般について指導し、メリハリのある規則正しい生活のできる児童を育てる指導が必要であることが分かる。

(3) 「ながら勉強」の背景

「ながら勉強」の背景について、【小学校児童調査】質問17、【小学校保護者調査】質問5、6、8、14を用いて考察する。

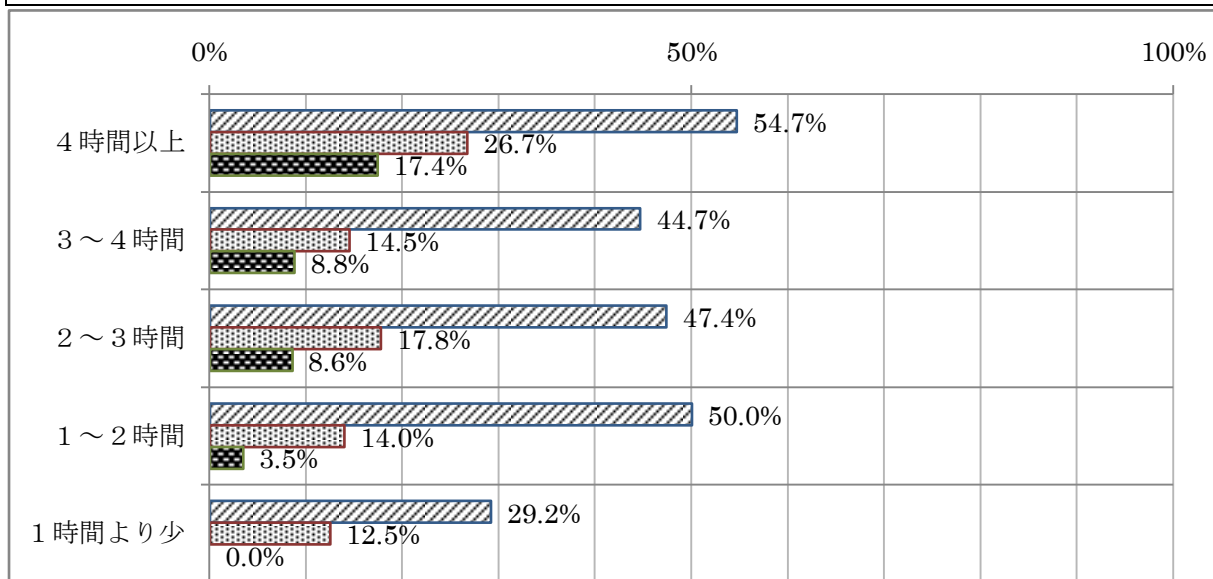
【小学校児童調査】質問17

家のどこにテレビがありますか。（答えをいくつ選んでもかまいません）

		回答数	割合	
	総回答数	589		0% 50% 100%
①	居間など、家族が集まる部屋・場所	550	93.4%	
②	客間や寝室など、子どもだけでも自由に見ることができる部屋・場所	285	48.4%	
③	テレビ付きけいたい電話など、自由に持ち運べるテレビがある	109	18.5%	
④	子ども専用のテレビがある	64	10.9%	

【テレビの視聴時間と家でテレビのあるところとのクロス集計】

	客間や寝室など、子どもだけでも自由に見ることができる部屋・場所		子ども専用のテレビがある
	テレビ付きけいたい電話など、自由に持ち運べるテレビがある		

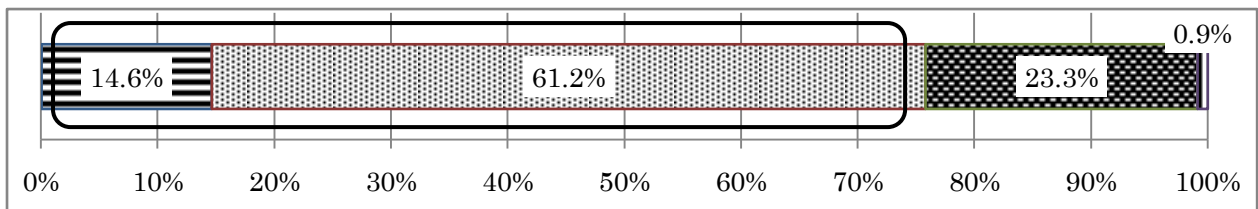


・ 普段（月～金曜日）のテレビの視聴時間の長いほど、家に「自由に持ち運べるテレビ」や「子ども専用のテレビ」がある割合が高い。

【小学校保護者調査】質問5

お子さまは、家庭学習をするときにテレビが気になっていますか。

	「家庭学習」をするときは、いつもテレビを見ながらやっていた		「家庭学習」をするときは、テレビを見ることはなかった
	「家庭学習」をするときは、ときどきテレビを見ながらやっていた		わからない

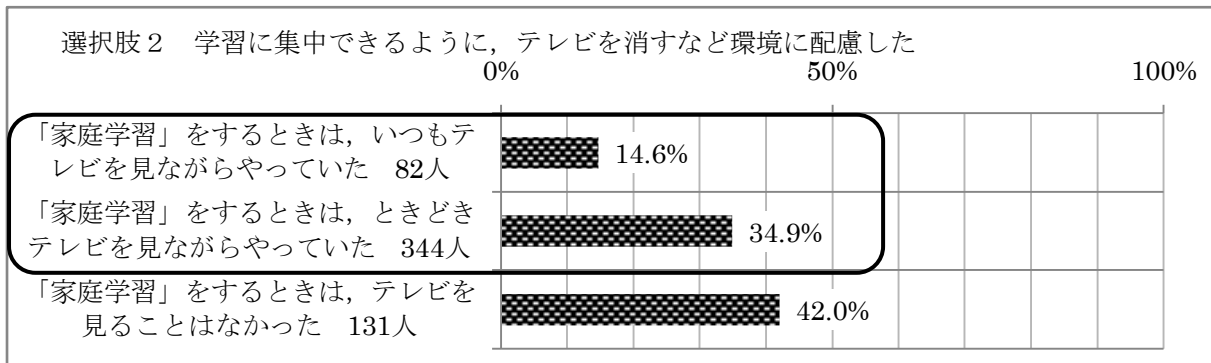


・子どもが「ながら勉強」をしていると考える保護者は、約75.8%である。

【小学校保護者調査質問5と質問6，8，14とのクロス集計】

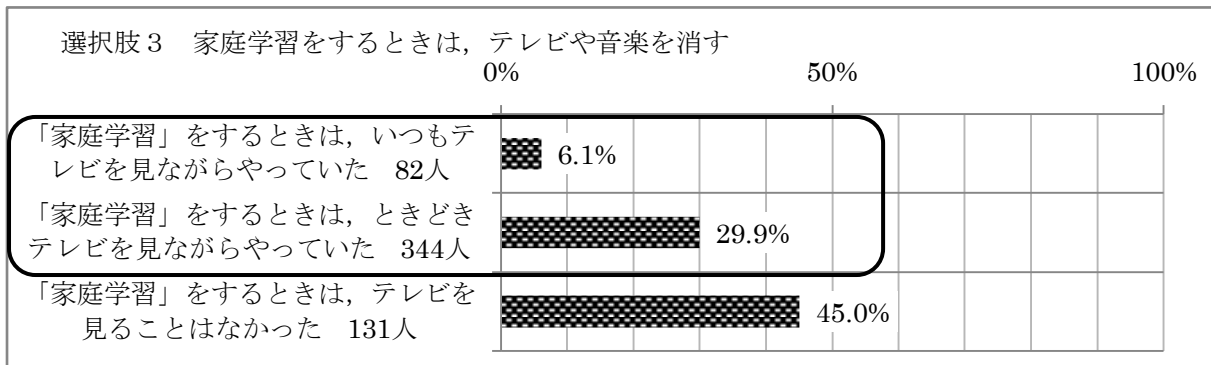
【小学校保護者調査】質問6

家庭学習について、家庭ではどのようなことを行っていましたか。（複数回答可）



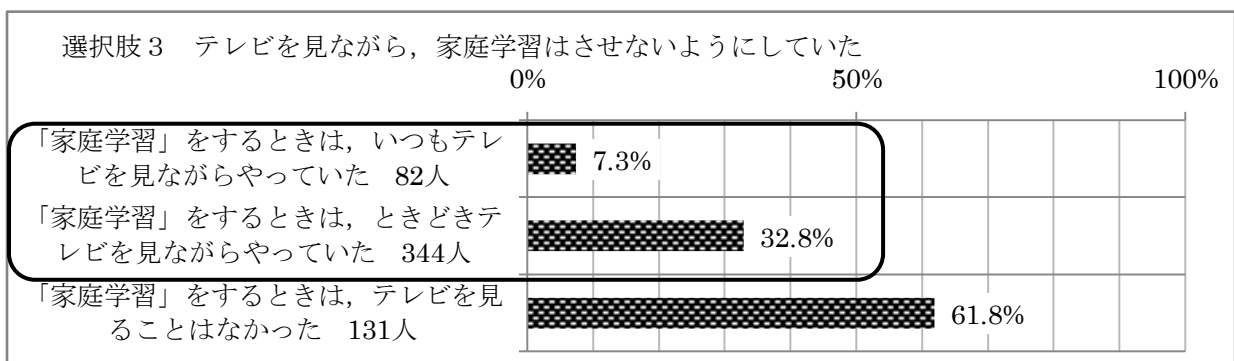
【小学校保護者調査】質問8

家庭学習について、お子さまとのルールや約束がありますか。（複数回答可）



【小学校保護者調査】質問14

お子さまのテレビやビデオの見かたについて、家庭でルールを作っていたこと、または心がけていたことなど選んでください。（複数回答可）



「ながら勉強」の背景についての考察

「ながら勉強」を改善するためには、家庭の協力は不可欠である。

本調査結果から、テレビの視聴時間の長い児童の家庭ほど、児童だけで自由に見ることができるといえる割合が高いことが分かった。学校では、テレビの視聴時間について指導はできるが、実際に、家庭でのテレビ視聴を規制できるのは保護者である。しかし、保護者は、子どもが「ながら勉強」をしていると考えてはいるものの、「ながら勉強」をさせないような対応をしている割合が低い。

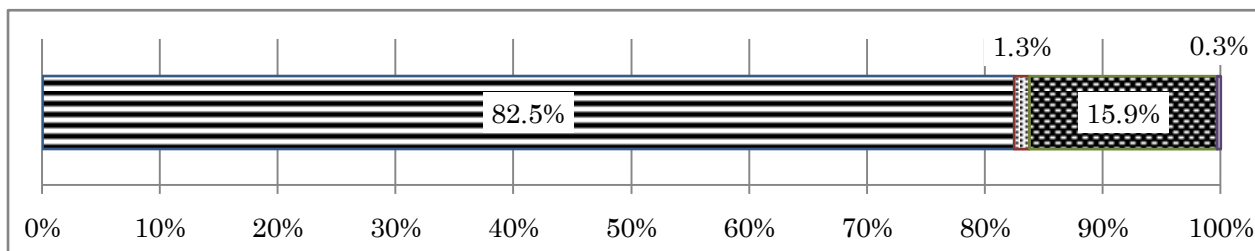
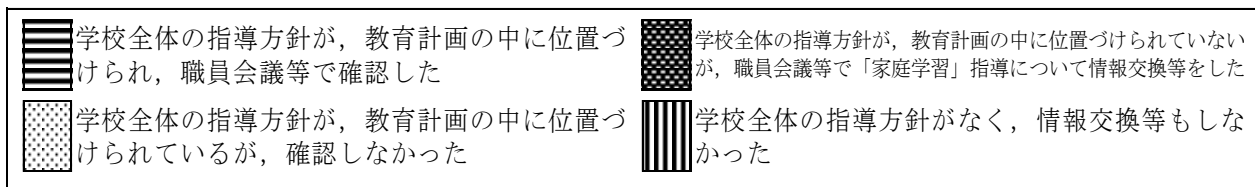
今後、学校は、望ましい家庭学習の環境を整えてもらえるように、理解と協力を得るための努力をこれまで以上にしなければならない。家庭の理解と協力なくして、「ながら勉強」の改善は図られないであろう。

(4) 全教員による共通確認

全教員による共通確認について、【小学校教務主任調査】質問12, 13, 15, 18を用いて考察する。

【小学校教務主任調査】質問12

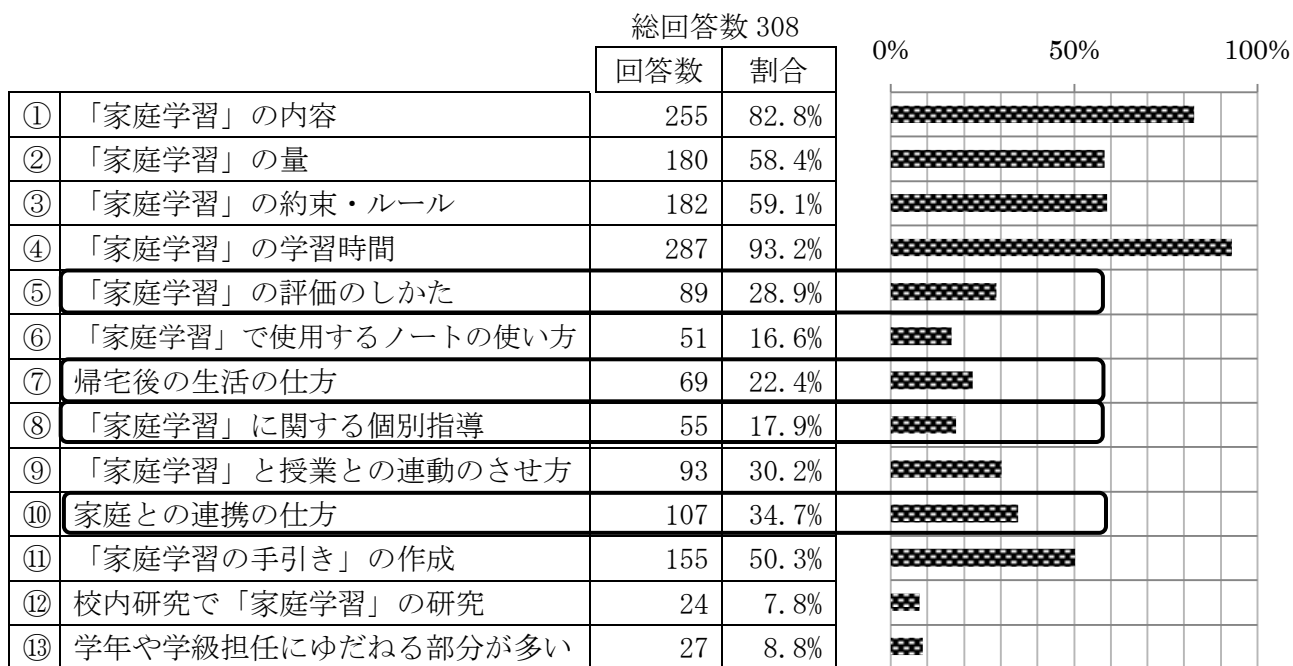
学校全体の「家庭学習」指導方針があり、共通確認しましたか。



・学校全体の指導方針が、教育計画の中に位置づけられている学校は、約83.8%である。

【小学校教務主任調査】質問13

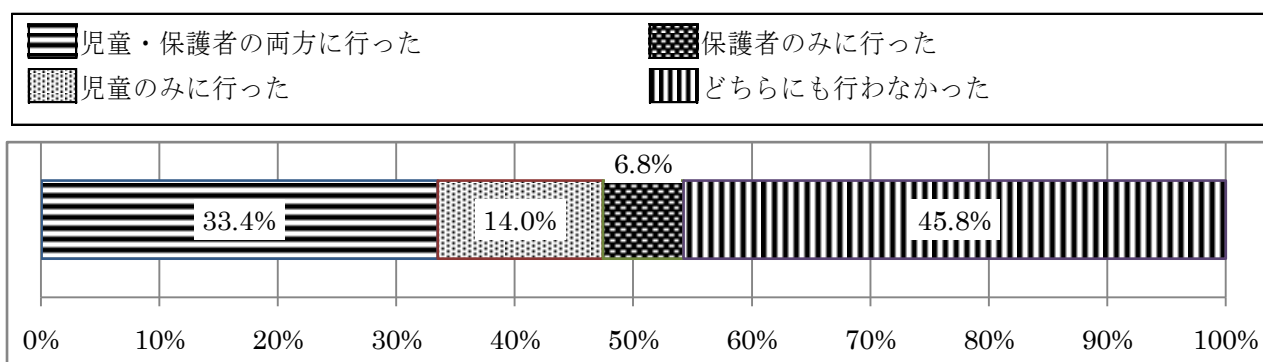
「家庭学習」に関する具体的指導について、全教員で共通確認していることを以下から選んでください。（複数回答可）



・「家庭学習の評価のしかた」「家庭学習で使用するノートやノートの使い方」「帰宅後の生活の仕方」「家庭学習に関する個別指導」の共通確認をしている学校が30%を下回っている。

【小学校教務主任調査】質問15

「家庭学習」の実態や意識に関する、学校独自の調査を行いましたか。

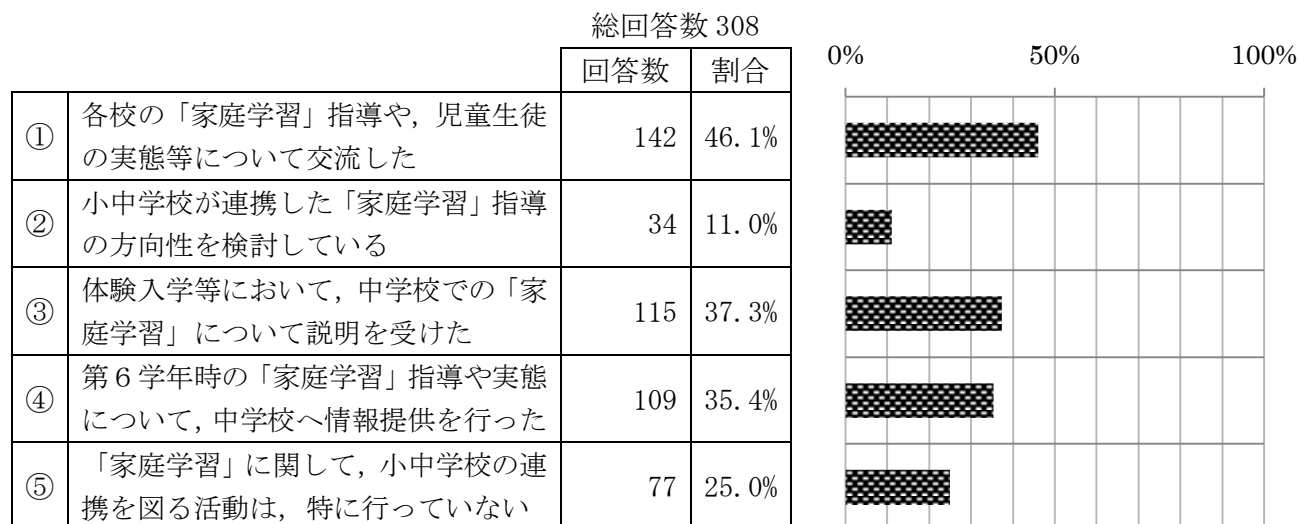


・学校独自の実態調査を行った学校は、約54.2%である。

【小学校教務主任調査】質問18

「家庭学習」に関して、小中学校の連携を図るために、どのような活動を行いましたか。

(複数回答可)



全教員の共通確認についての考察

家庭学習の習慣化及び充実を図るためには、自校の児童や保護者の実態を把握し、その実態に応じた家庭学習の指導方針を設定し、全教員で共通確認することが重要であろう。

また、本県児童の課題が「テレビの視聴時間が長い」「家庭学習の時間があまり多くない」「ながら勉強をしている」であることを踏まえて、児童が取り組んできた家庭学習をどのように評価すれば学習意欲が高まるか、家庭学習に課題のある児童に対してどのような個別指導が効果的か、帰宅後にメリハリのある規則正しい生活をさせるにはどうしたらよいかなどについて、自校の実態に応じた具体的な指導の在り方を話し合い、共通確認を図らなければならないだろう。

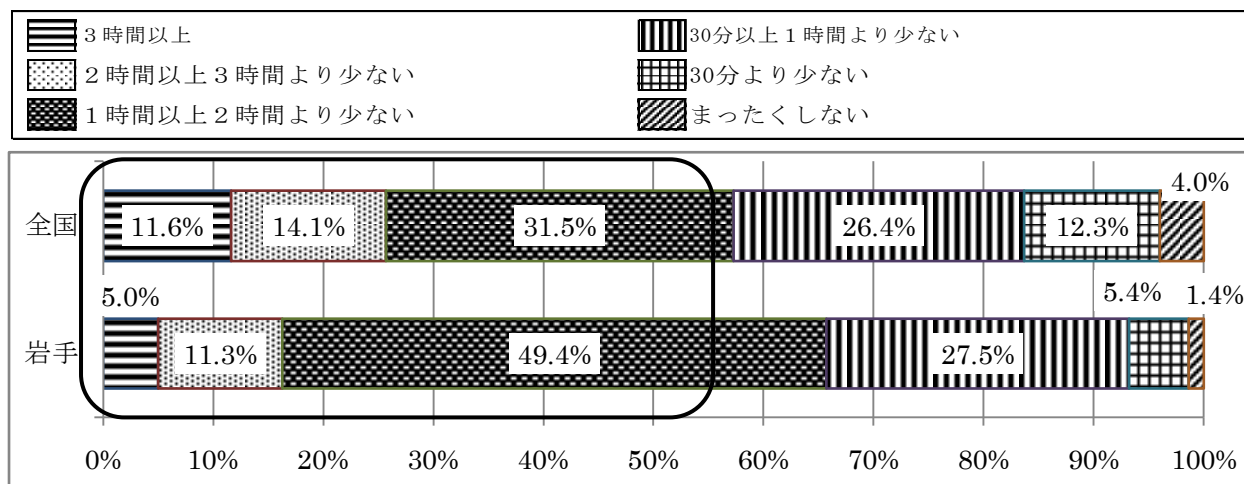
さらに、小中学校の連携を図り、小中学校相互の家庭学習指導を理解し合ったり、9年間を見通した家庭学習指導の方向性を検討したりすることも、今後重要になってくるのであろう。

(5) 宿題の頻度

宿題の頻度について、【平成21年度全国学力・学習状況調査】児童質問紙(16)，(17)，【小学校学級担任調査】質問18，【小学校児童調査】質問4，8，9，10を用いて考察する。

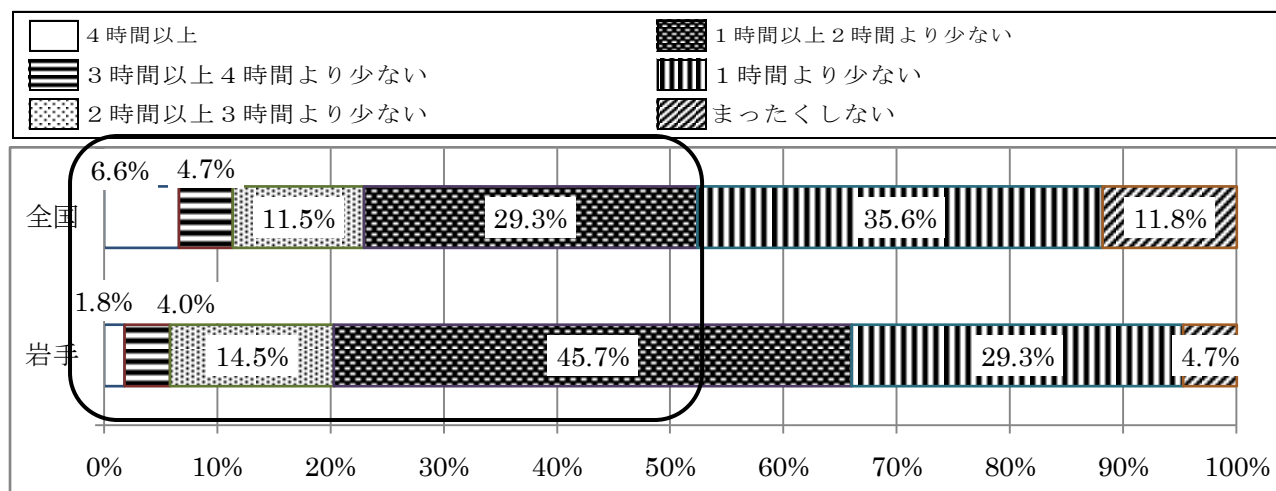
【平成21年度全国学力・学習状況調査】 児童質問紙(16)

学校の授業時間以外に、ふだん（月曜日から金曜日），1日あたりどれくらいの時間，勉強しますか。



【平成21年度全国学力・学習状況調査】 児童質問紙(17)

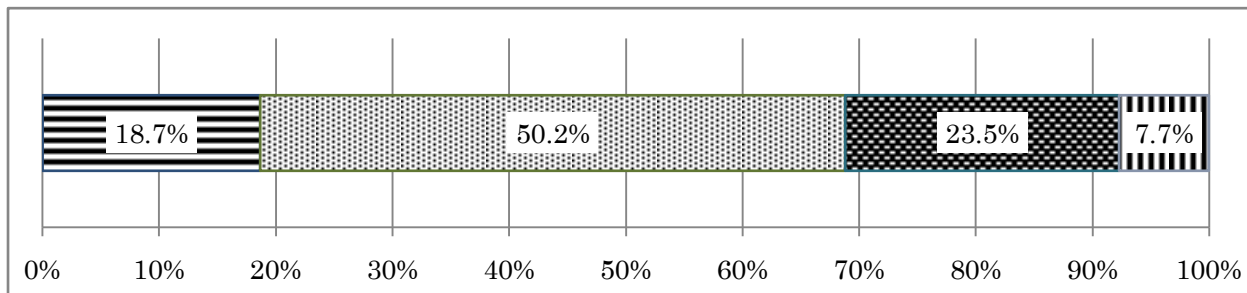
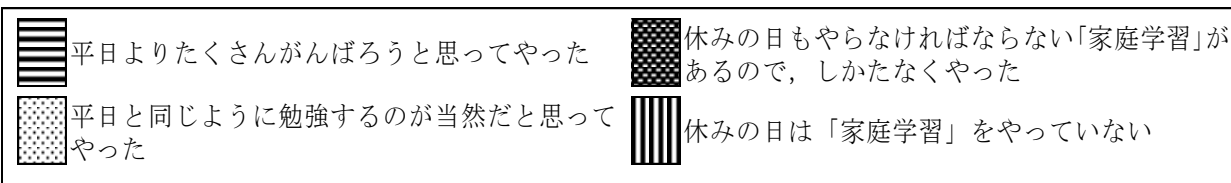
土曜日や日曜日など学校が休みの日に，1日あたりどれくらいの時間，勉強しますか。



- ・岩手県は、「3時間以上」学習する児童の割合が平日で6.6ポイント，休日で5.5ポイント，全国より低い。
- ・岩手県は、「1時間以上2時間より少ない」児童の割合が，平日で17.9ポイント，休日で16.4ポイント，全国より高い。

【小学校児童調査】 質問 4

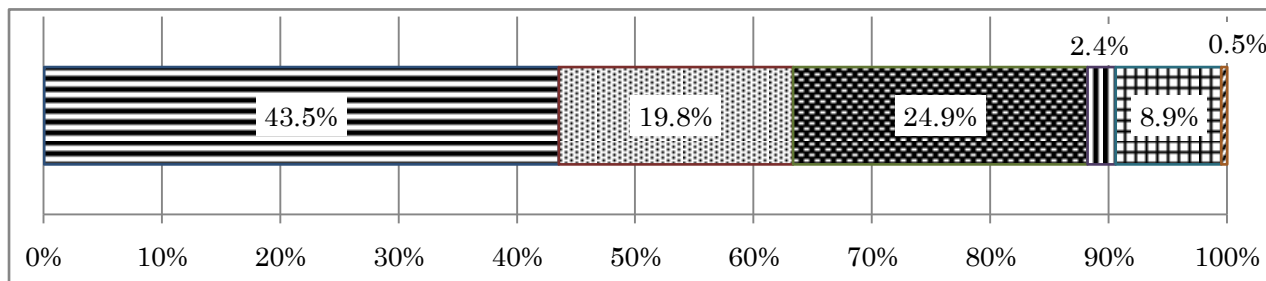
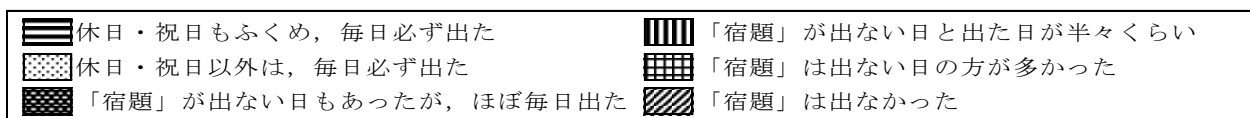
学校が休みの日の「家庭学習」には、どのような気持ちで取り組みましたか。



- ・ 休日の家庭学習を「平日よりたくさんがんばろうと思ってやった」は、約18.7%である。
- ・ 休日の家庭学習を「しかたなくやった」「休みの日はやっていない」を合わせると、約31.2%である。

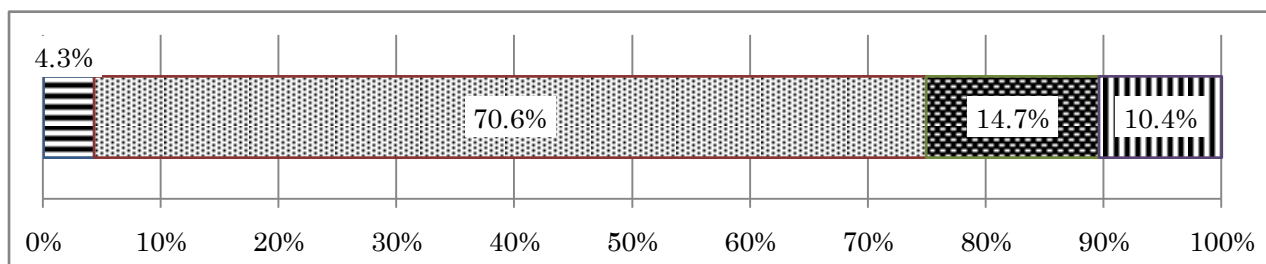
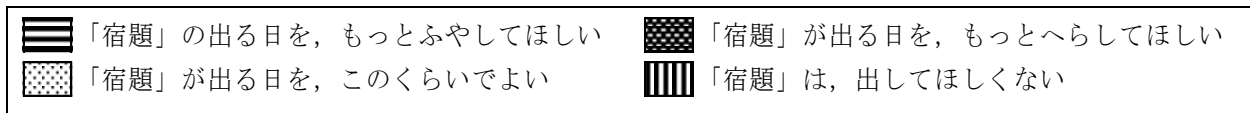
【小学校児童調査】 質問 8

「宿題」は、どれくらい出ましたか。



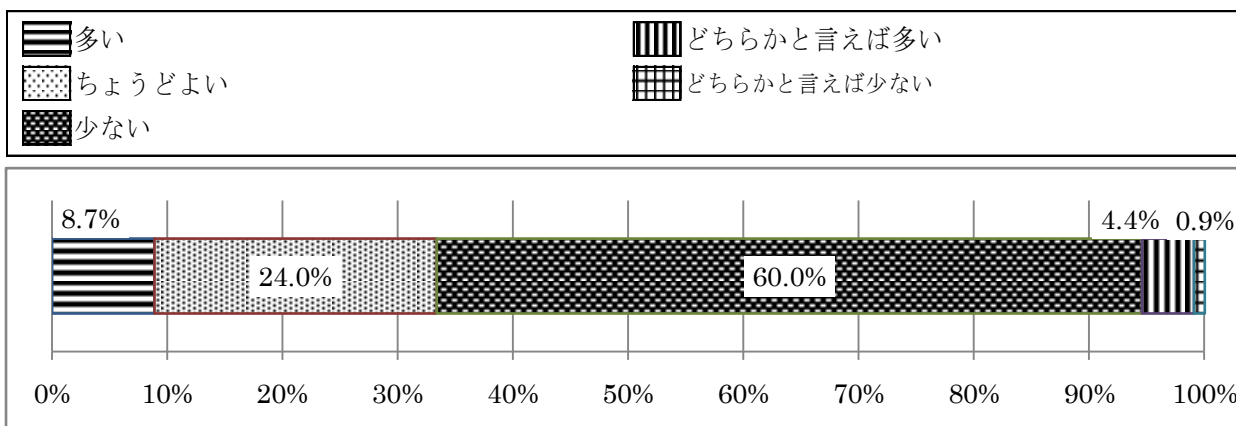
【小学校児童調査】 質問 9

質問 8 で選んだ「宿題」の出る日について、どのように思いますか。



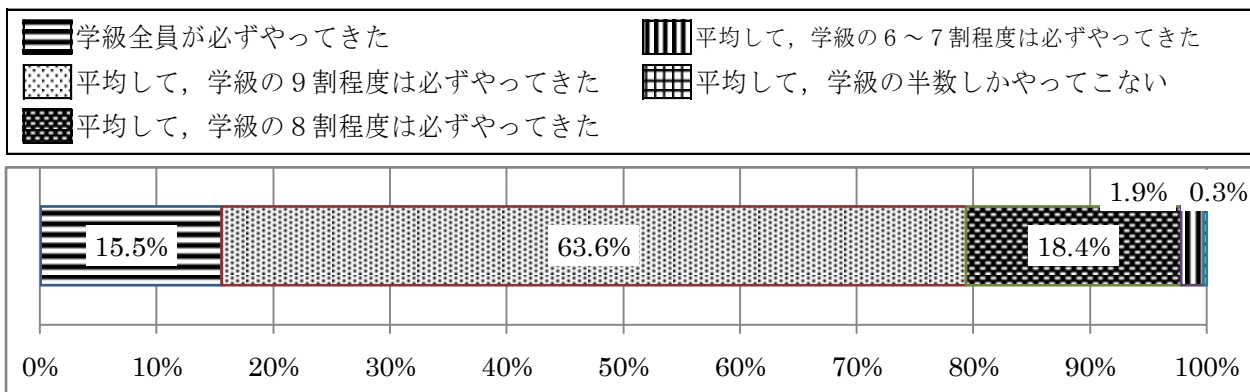
【小学校児童調査】質問10

先生が一日分として出す「宿題」の量について、どのように思いましたか。



【小学校学級担任調査】質問18

「宿題」に対する児童の実施状況はどれくらいですか。



宿題の頻度についての考察

本県児童の家庭学習の時間は、平日、休日ともに「1時間以上2時間より少ない」の割合が多いが、前述の「ながら勉強」の傾向を加味すると、家庭学習の時間が多いとは言えないであろう。また、授業のある平日と自由な時間が多いであろう休日を比べても、休日の家庭学習の時間が増えている傾向は見られない。

家庭学習の時間を増やす方法としてまず考えられるのは、宿題の量を増やすことである。

学級担任からは、ほぼ毎日宿題が出されている現状がある。しかし、「休日・祝日も含め毎日必ず宿題が出た」のは半数に満たない。宿題を出す日を減らしてほしい、宿題が多いと感じている児童もいるようであるが、全体的にその実施状況が低いわけではない。ならば、もう少し宿題の量を増やし、家庭学習に負荷を与えてもよいのではないかと。どうしても負担が大きい児童には個別に対応しながら、全体の家庭学習の底上げを図ってはどうか。

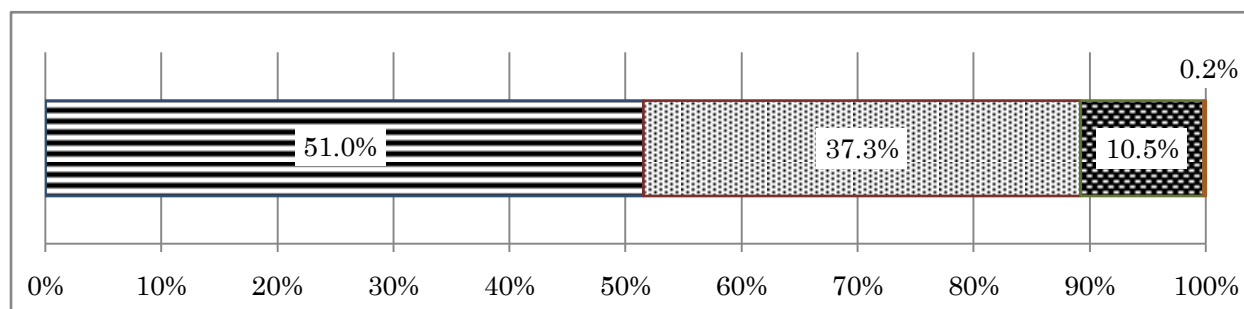
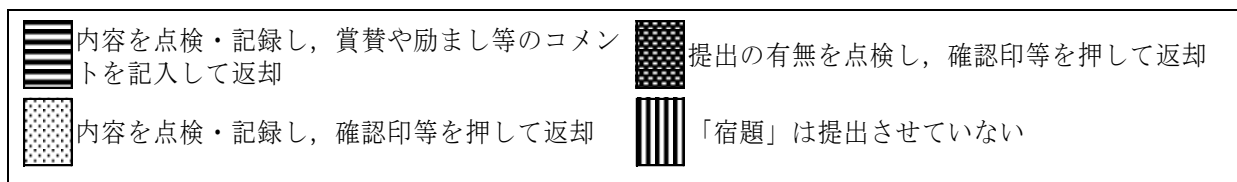
高学年においては、家庭学習の時間を増やすとともに、休日にも家庭学習するのは当然であるという意識を高めていけるような指導が本県には必要ではないだろうか。

(6) 宿題の評価・事後指導

宿題の評価・事後指導について、【小学校学級担任調査】質問21, 22, 30, 【小学校児童調査】質問5より考察する。

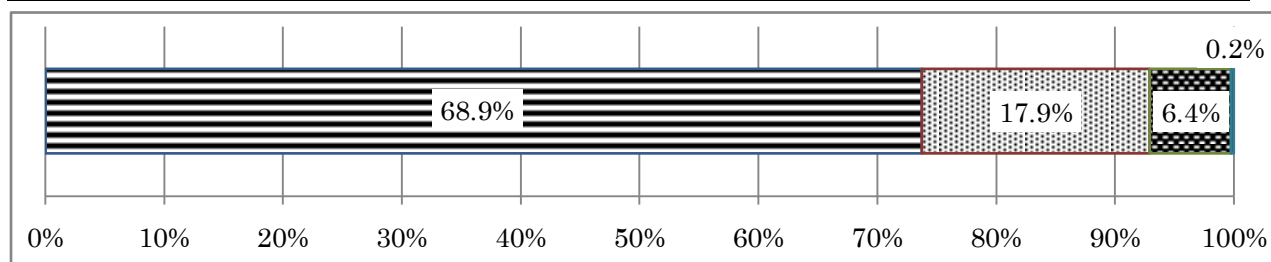
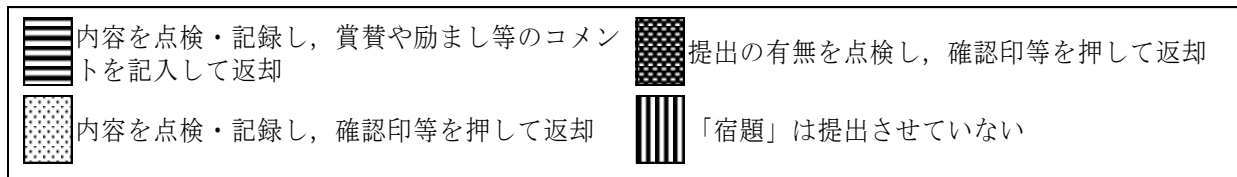
【小学校学級担任調査】質問21

「宿題」はどのように返却することが多かったですか。



【小学校学級担任調査】質問30

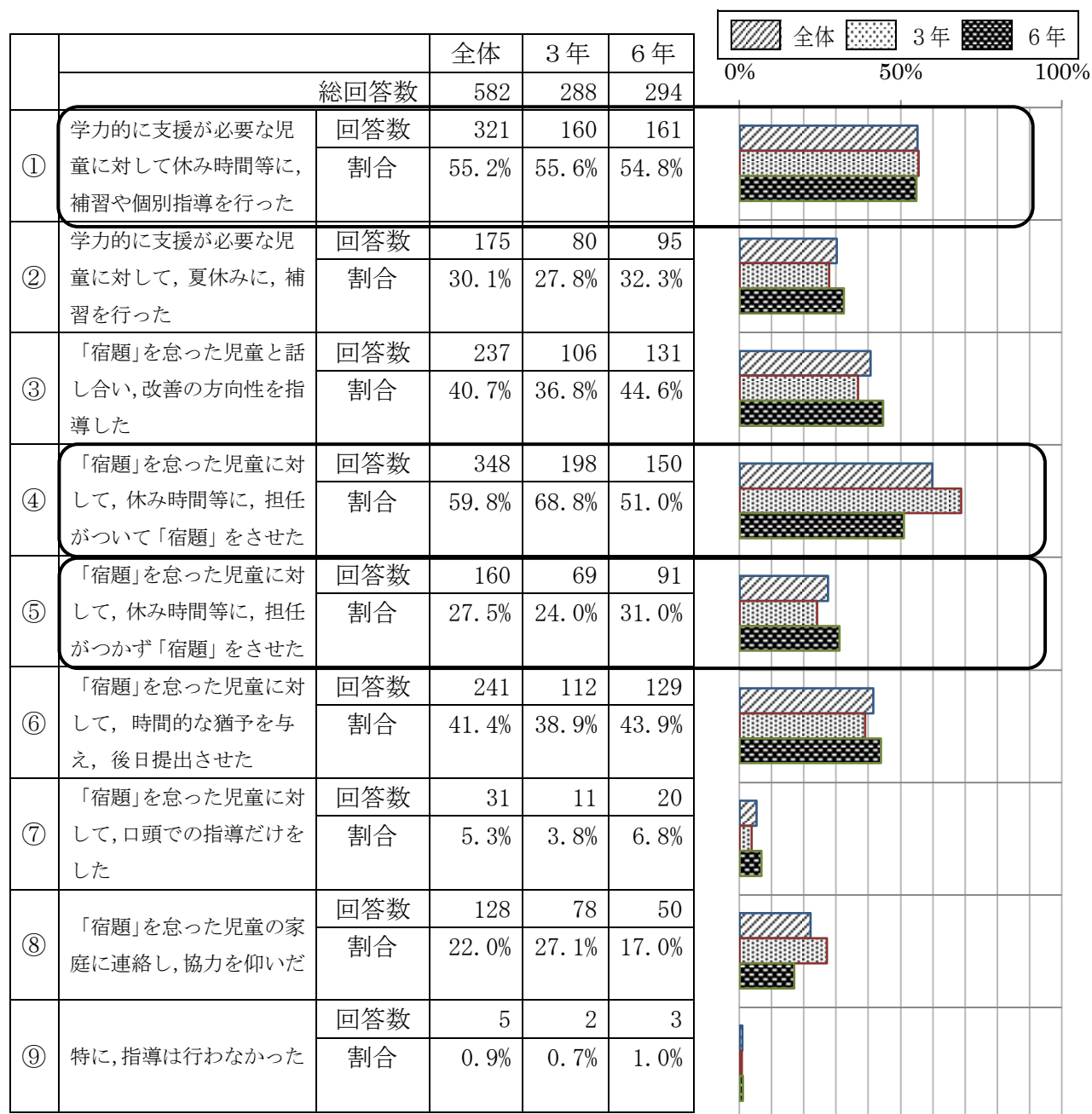
「自主学习」はどのように返却することが多かったですか。



- ・宿題では、「コメントを記入して返却した」と「確認印等を押して返却した」がほぼ半々。
- ・自主学习では、「コメントを記入して返却した」が70%に近い。

【小学校学級担任調査】質問22

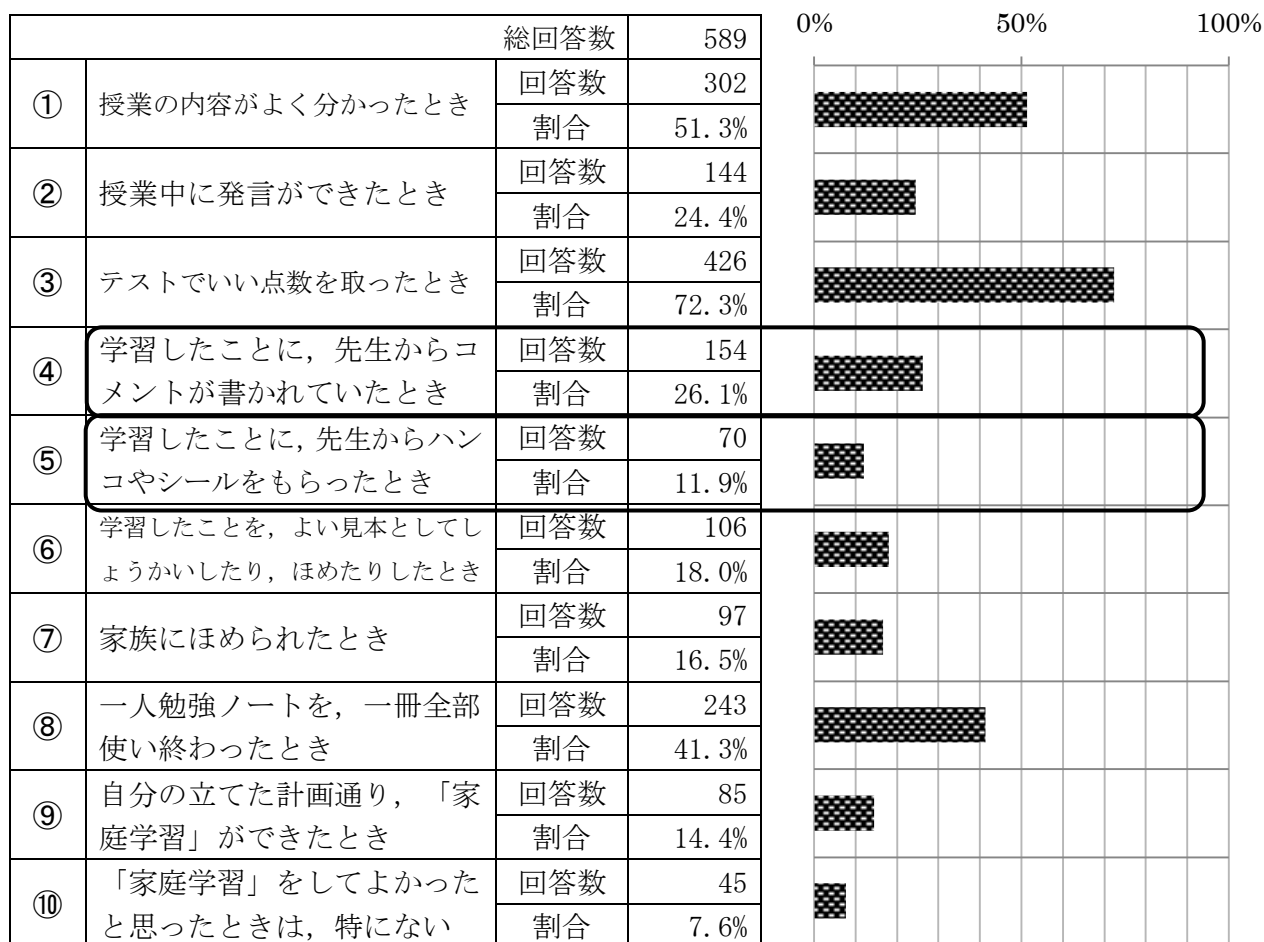
「宿題」をやってこない児童に対する指導は、どのように行いましたか。（複数回答可）



・宿題をやってこない児童に対して、休み時間等に学習をさせている学級担任が50%を超えている。

【小学校児童調査】質問5

これまで、「家庭学習」をしてよかったと思ったのは、どのようなときですか。（複数回答可）



宿題の評価・事後指導についての考察

家庭学習の時間を増やすためには、児童の学習意欲を高めることが重要である。

家庭学習への評価として、ハンコやシールをもらうよりコメントが書かれていた方が、家庭学習をしてよかったと思う児童が多い。一人一人の学習内容に応じて、その児童のよさを具体的に認めてあげる評価が児童に喜びを与え、学習意欲につながるであろう。

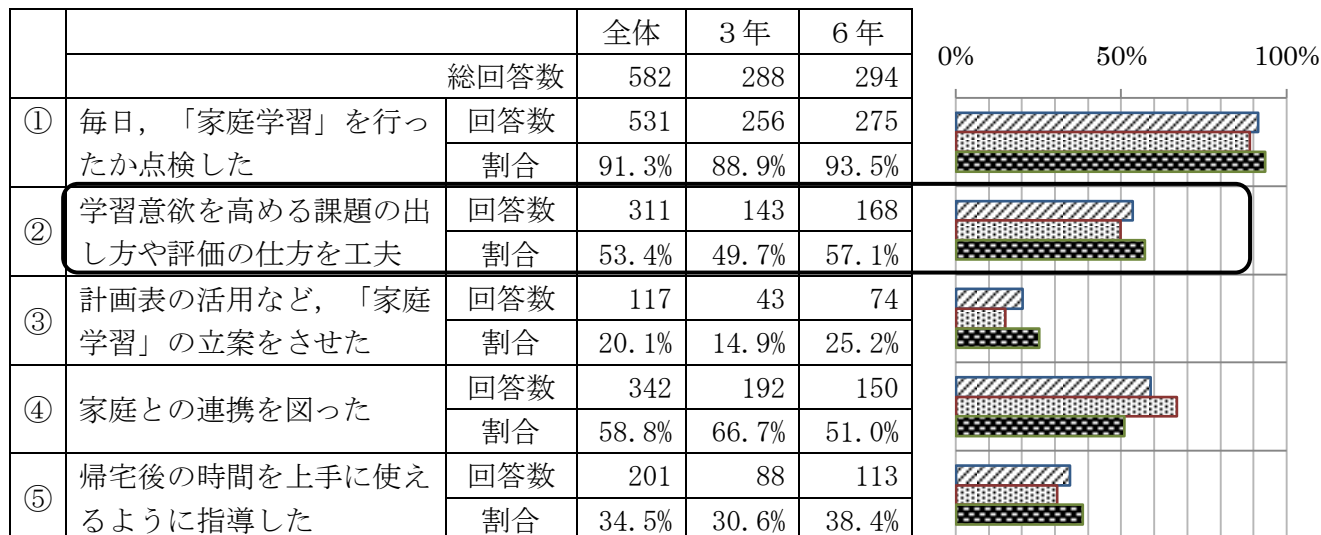
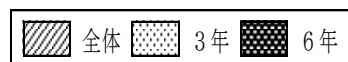
また、出された宿題はやるのが当たり前という意識を児童にもたせるような事後指導、個の能力に応じた個別指導を行うことも必要である。学級担任は宿題を出すとともに、それに対する評価・事後指導をきちんとやることで、児童の学習意欲を高めることが重要である。

(7) 家庭学習の内容の充実

家庭学習の内容の充実について、【小学校学級担任調査】質問11, 13, 19, 24, 28, 33, 【小学校児童調査】質問14, 【小学校保護者調査】質問10を用いてより考察する。

【小学校学級担任調査】質問11

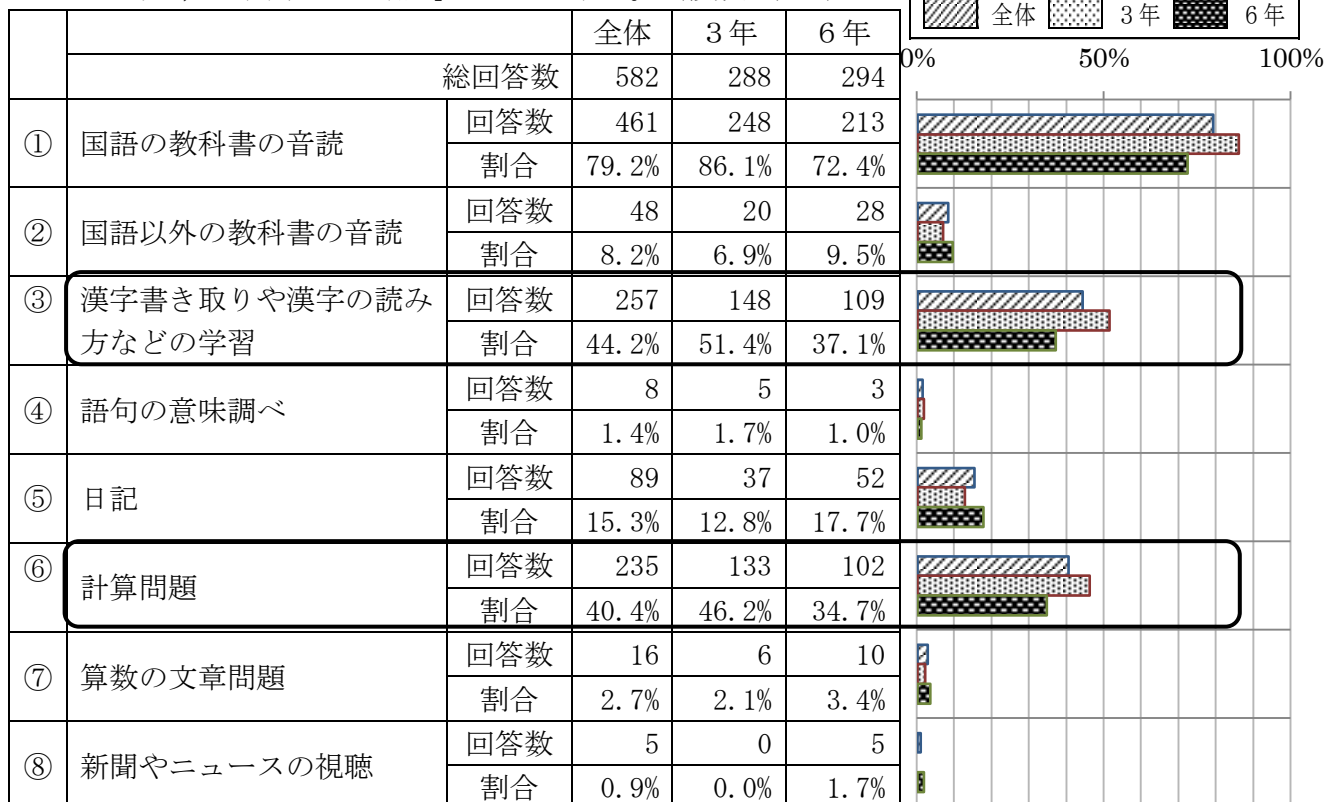
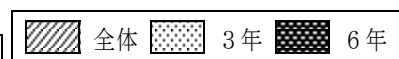
「家庭学習」の習慣化を図るために、どのようなことを行いましたか。
(複数回答可)



- ・「学習意欲を高める課題の出し方や評価の仕方を工夫した」が、50%を超えている。

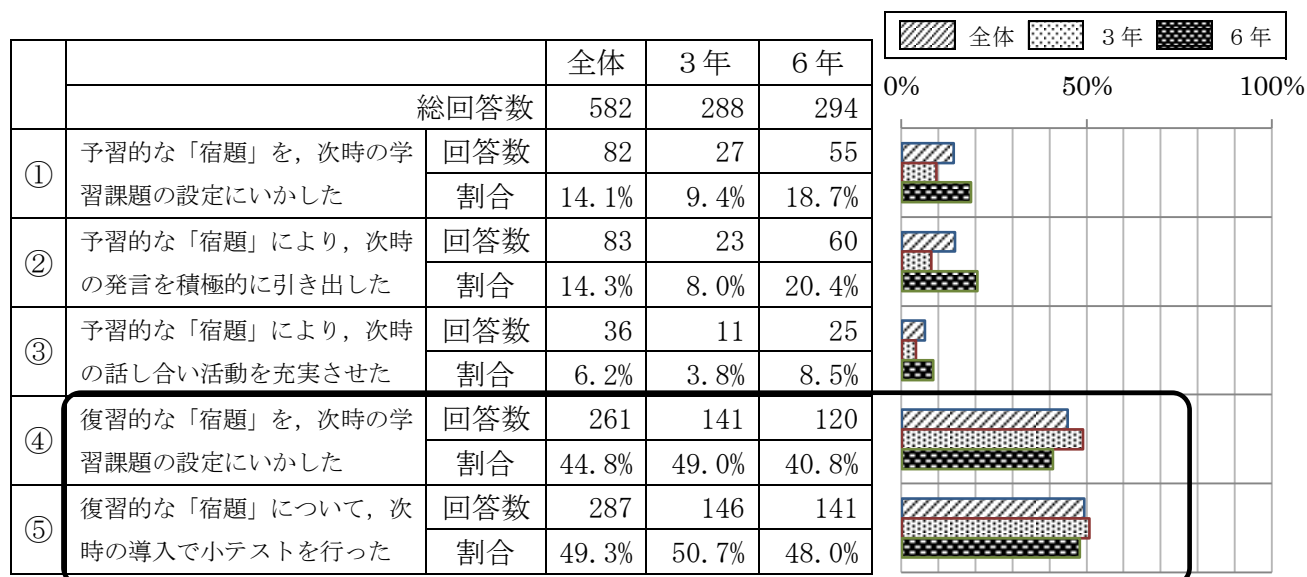
【小学校学級担任調査】質問19

ほぼ毎日、必ず出した「宿題」はありますか。(複数回答可)



【小学校学級担任調査】質問24

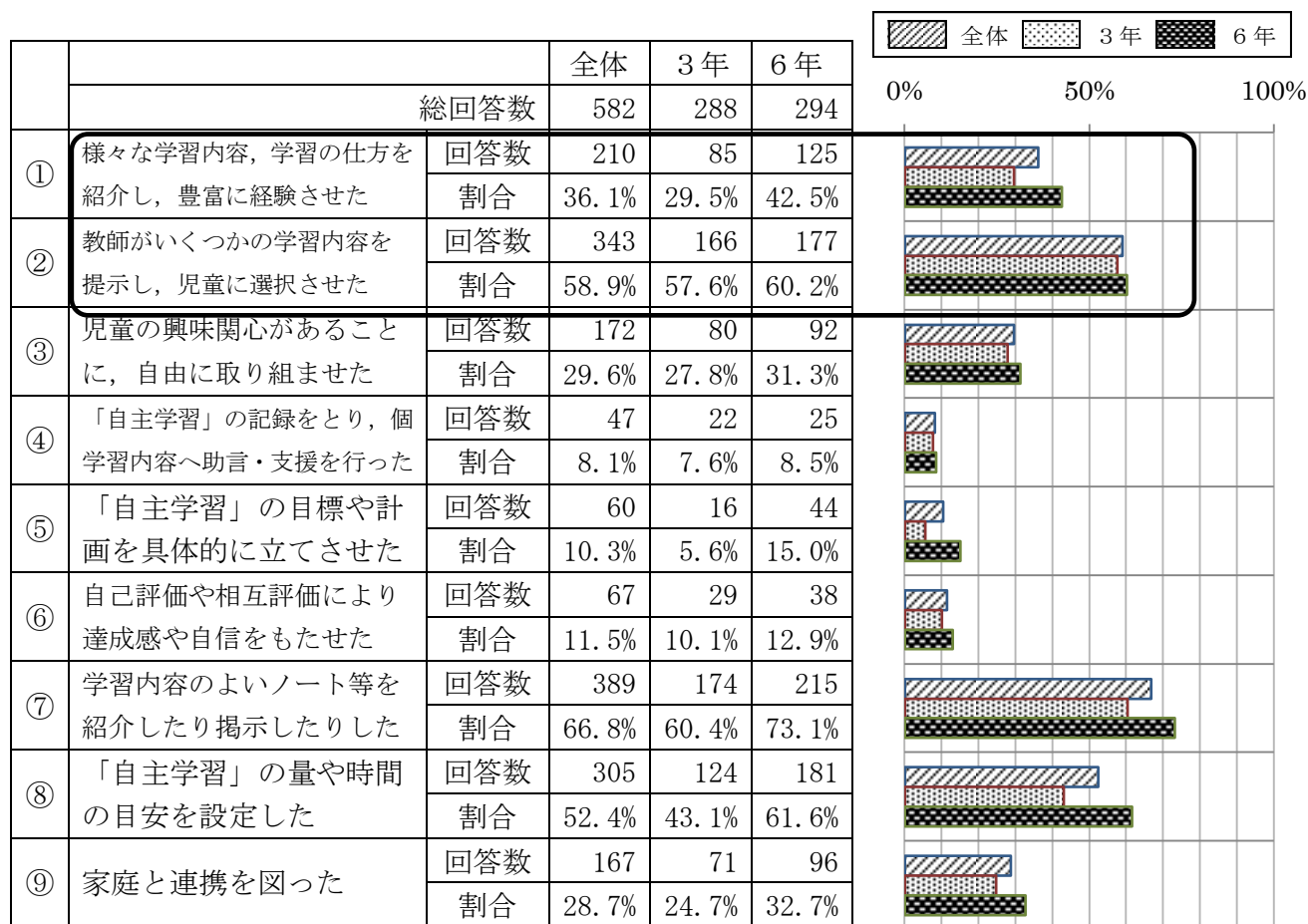
授業と「宿題」との連動を図るために、どのようなことを行いましたか。（複数回答可）



・宿題として、多く出されているのが「読み書き・計算」、復習的な宿題である。

【小学校学級担任調査】質問28

「自主学习」に意欲的に取り組ませるために、主にどのような指導を行いましたか。（複数回答可）



・自主学习に意欲的に取り組ませるため、学級担任が学習内容を提示し、取り組ませている。

【小学校児童調査】質問14

どのような自主学習に主に取り組みましたか。（答えをいくつ選んでもかまいません）

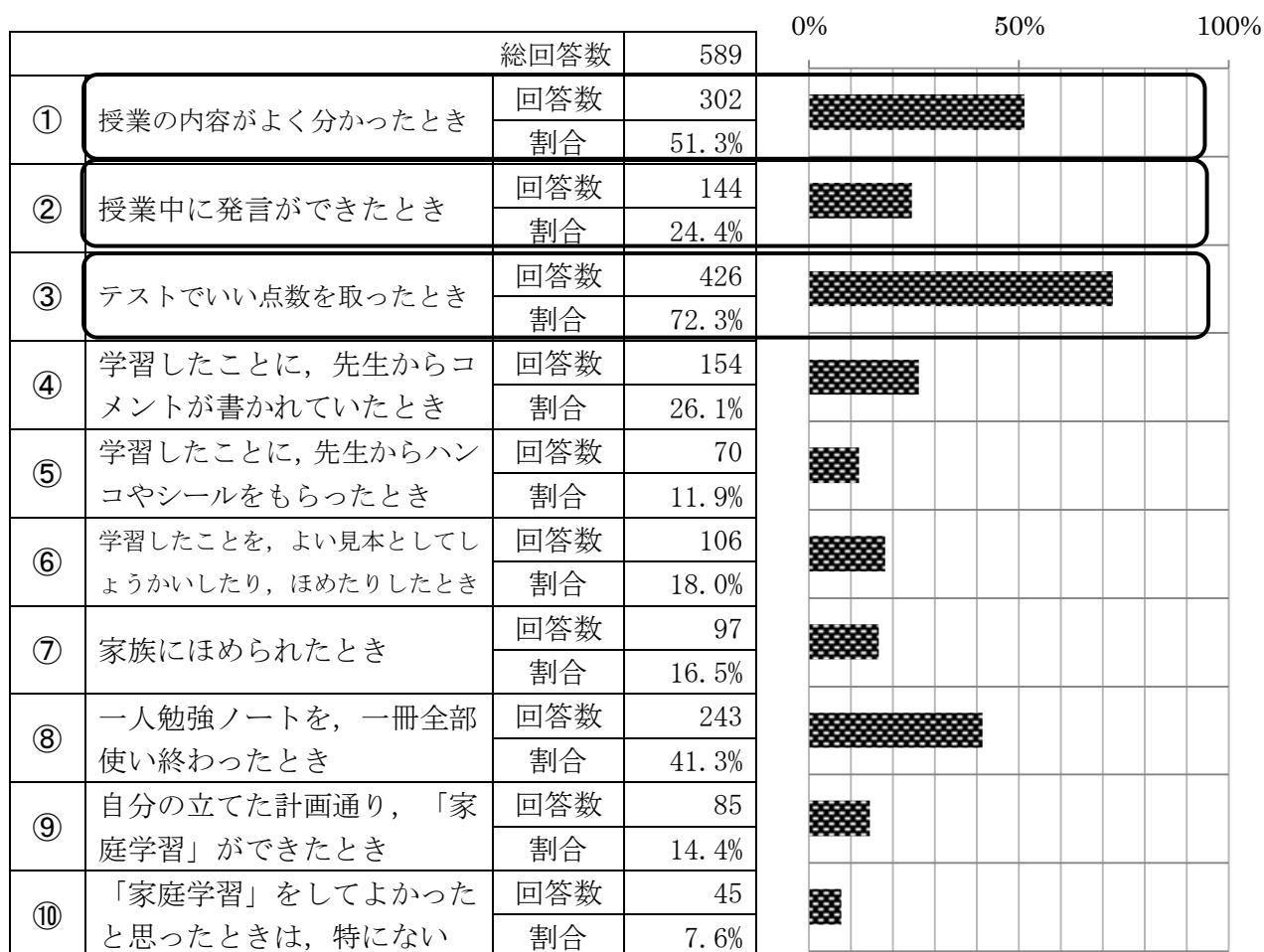
総回答数		589	0%	50%	100%	
①	授業の復習	回答数	405			
		割合	68.8%			
②	授業の予習	回答数	204			
		割合	34.8%			
③	教科書の視写	回答数	187			
		割合	31.7%			
④	自分で作った問題	回答数	92			
		割合	15.6%			
⑤	テストのための学習	回答数	322			
		割合	54.7%			
⑥	学校で買った漢字ドリルを使った学習	回答数	338			
		割合	57.4%			
⑦	学校で買った国語ドリル（漢字ドリル以外）を使った学習	回答数	105			
		割合	17.8%			
⑧	学校で買った計算ドリルを使った学習	回答数	380			
		割合	64.5%			
⑨	学校で買った算数ドリル（計算ドリル以外）を使った学習	回答数	64			
		割合	10.9%			
⑩	国語，算数以外で，学校で買ったドリル，問題集を使った学習	回答数	28			
		割合	4.8%			
⑪	家で買った問題集や教材を使った学習	回答数	102			
		割合	17.3%			
⑫	わからない言葉の意味調べ	回答数	86			
		割合	14.6%			
⑬	図かんや百科事典を使った調べ学習	回答数	46			
		割合	7.8%			
⑭	インターネットを使った調べ学習	回答数	28			
		割合	4.8%			
⑮	新聞やニュースを見る学習	回答数	50			
		割合	8.5%			
⑯	リコーダーなどの演奏練習	回答数	40			
		割合	6.8%			
⑰	日記	回答数	172			
		割合	29.2%			
⑱	体力づくり	回答数	74			
		割合	12.6%			
⑲	その他（主に英語）	回答数	50			
		割合	8.5%			

- ・自主学習として、主に取り組んでいる内容は「漢字ドリル」「計算ドリル」「授業の復習」である。
- ・学級担任が出す宿題と児童の考える自主学習が類似している。

【小学校児童調査】質問5

これまで、「家庭学習」をしてよかったと思ったのは、どのようなときですか。

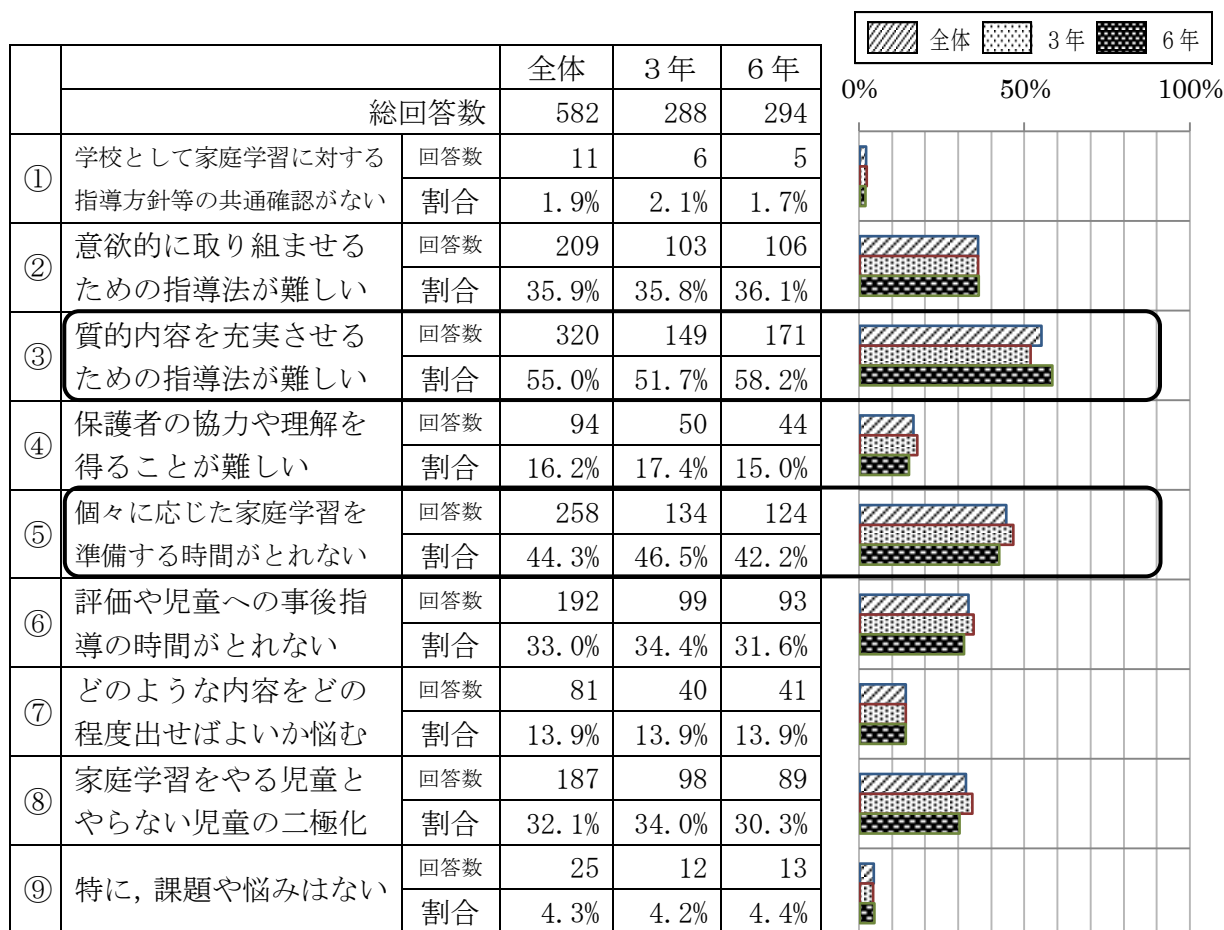
(答えはいくつ選んでもかまいません)



- ・「分かった・できた」と感じられたときに、家庭学習をしてよかったという思いをもっている。

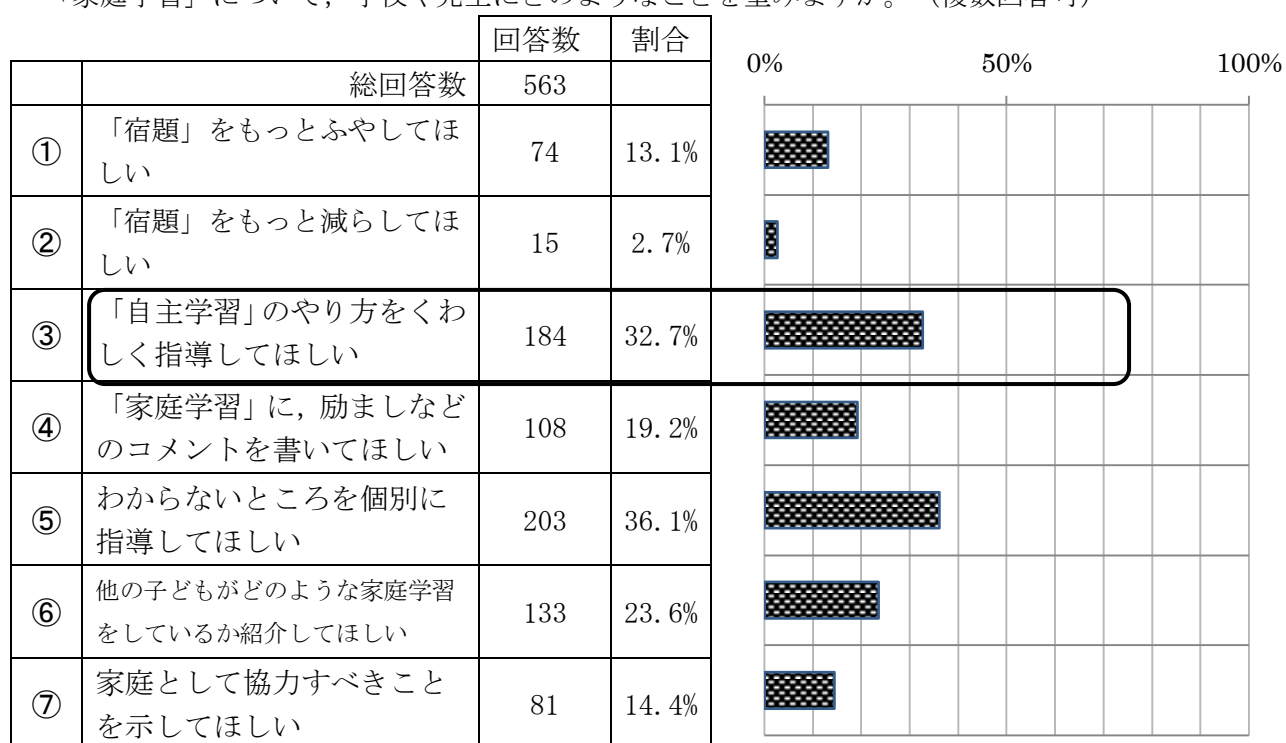
【小学校学級担任調査】質問13

「家庭学習」の習慣化を図るために、課題や悩みはありますか。（複数回答可）



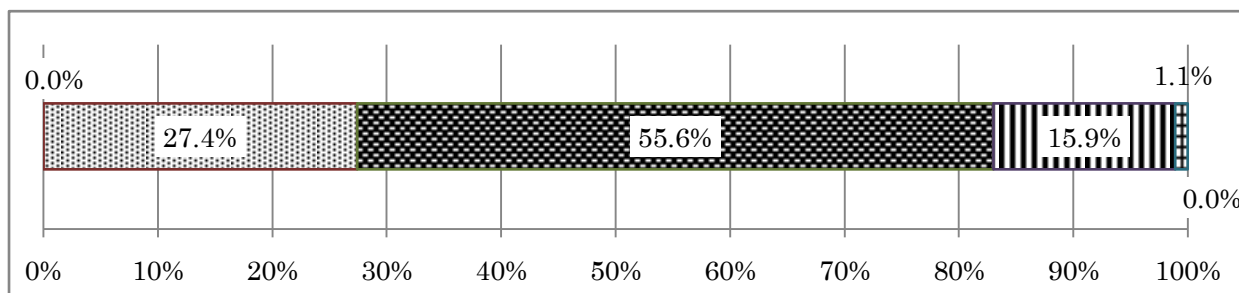
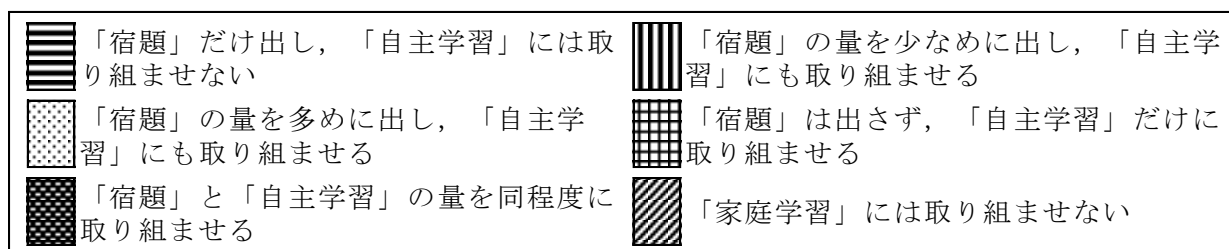
【小学校保護者調査】質問10

「家庭学習」について、学校や先生にどのようなことを望みますか。（複数回答可）



【小学校学級担任調査】質問33

これからの「家庭学習」は、どのようにしていくことが望ましいと思いますか。



- ・量的なバランスは違うが、家庭学習では「宿題」と「自主学習」の両方に取り組ませることが望ましいが、約98.9%である。

家庭学習の内容の充実についての考察

小学生のこれからの家庭学習では、宿題と自主学習の両方に取り組みせたいと考える学級担任がほとんどである。そこで、学級担任は、様々な学習内容や学習の仕方を児童に提示するなどの工夫をしているようである。しかし、児童が主に取り組んでいる自主学習の内容は、宿題に出されている内容と類似したことの割合が高い。これは、宿題が国語（漢字書き取り等）ならば自主学習は算数（計算練習等）、宿題が算数ならば自主学習は国語ということが繰り返されることが多く、自主学習の内容面での充実が図られていない現状をあらわしているものではないだろうか。

また、「家庭学習の質的内容を充実させる指導が難しい」「個々の実態に応じた家庭学習を準備する時間がとれない」と考える学級担任、「自主学習のやり方をくわしく指導してほしい」と望む保護者の割合の高さからも、自主学習にうまく取り組ませることができていないことがうかがえる。

これからの家庭学習で、宿題と同等に自主学習を重んじていくのならば、例えば、国語と算数は、毎日、両方とも宿題としてきちんと出し、自主学習では、社会や理科などの調べ学習、児童の興味関心、知的好奇心から取り組むような学習をさせるなど、はっきりと区別することも一案ではないだろうか。

家庭学習において児童に自主学習を求めるのであれば、どんな自主学習に取り組ませるか、どのように自主学習に取り組ませるか、自主学習をとおして育てたい力は何かなど、自校の実態を踏まえて話し合い、共通確認のうえ、学級担任は指導にあたらなければならない。自主学習は、決して「ノート〇ページ分やればよい」ということではないはずである。

また、学級担任が出す宿題についても、「授業との連動」という視点から工夫していく必要がある。授業と連動した宿題を出すことは、児童の学習意欲を高め、学習内容の理解の深まりや積極的な発言等につなげることが可能だからである。